

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 農学部 4 年

参加プログラム: IARU GSP

派遣先大学: オックスフォード大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他(未定)

#### 派遣先大学の概要

オックスフォード大学は中世以来の知の発信地であり、一千年近くにわたり歴史的・思想的に重要な役割を果たしてきた。ケンブリッジやハーバードなど、世界中のあらゆる大学がオックスフォードから派生したといっても決して過言ではないらしく、押しも押されもせぬ存在感を放っている。ロンドン郊外の田園にある小さな町に、世界中から人々が集い、学問が築かれていくさまは感動的であり、かつ圧倒的である。この光景そのものに、見る価値がある。

#### 参加した動機

ヨーロッパというものをこの目で確かめたかったのが最大の動機である。様々な国の学生が集まるため、彼らと議論をしてより広い視野を持てると考えた。さらに、気候変動や環境保護、urban challenge などがテーマで、自分の専門分野、将来就く可能性のある職業にかなり関係してくるため、関連知識を身につけられるのではないかと期待した。

また、英語漬けの環境に行けば英語に慣れるのではないかという願望もあった(このような願望はもつレベルの学生は、現地でハードな生活が待ち構えていると覚悟した方がよい)。

#### 参加の準備

##### ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きの書類は、参加希望理由のエッセイも含め特に推敲することもなく短時間で書いたが、内容がひどいと落とされるらしい。自分なりの目標を吟味し、それを素直に書けばよいと思われる。

今のところ短期を含め東大からの留学生はかなり少なく、一方で海外への留学者数を増やすことが大学の目標となっているため、英語で要求水準に達していなくても熱意があれば通してくれる可能性が十分にある。筆者の同期で、ケンブリッジへ留学した学生は英語の要求レベルに達していなかったものの参加が認められたそうである。IARUに限らず、留学に強い関心をお持ちの方は、とりあえず書類を出してみることをお勧めする。

##### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは不要。

##### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

歯の検診は事前に日本で受けたが、それ以外は何もしていない。

(前年に学科の研修でベトナムへ行く機会があり、その際はかなり念入りに予防接種を受けた)

##### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

交流課を通じて加入することが義務付けられているので、それに従った。

##### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になし。

##### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

iBT は 88 だったが、英語力は完全に不足していた。事前に、日本で市販されている中では最も難度の高そうなリスニング教材をこなしてはいたのだが、教授陣や参加者の英語はまるで聞き取れず忸怩たる思いであった。過去の参加者の報告に、iBT100 でも足りないという指摘があったが、おそらくそれは正しい。

##### ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

兎に角リスニング力を鍛えること。洋画を字幕なしで楽々理解できる英語力が必要。

#### 学習・研究について

##### ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

\*tutorial & essay (1 時間半 × 4/1000 字 × 2, 1500 字 × 2)

Essay は、文献リストを参考に自分で文献を集めて執筆する。当該分野の全体像を得るところから自分で取り組む必要があるため、不慣れな分野だとしんどいものがあるが、書ききったときには達成感を味わうことができる。Essay 提出日の次の授業で、tutorial を受ける。Tutorial とは本来は試問らしいのだが、このコースでは教授を交え、少人数のグループでみっちり議論を行う。数日という極めて短い期間で文献を読み、理解して essay 内で議論する必要があるため、大いに鍛えられる。また、tutorial のおかげで、自分の論説が欠いていたものや他人の視点に気づき、学びを深めることができる。提出した essay に関しては教授が丁寧に feed back してくれる。

・presentation (一人 15 分)

プレゼンテーションは、グループ課題として行うものである。プログラムの全期間をかけて準備し、最後に公聴会を模したプレゼンテーションと質疑応答を行う。参加者はフォーマルな服装を着用し、場所もいかに公聴会で使いそうな荘厳な部屋を使用する。

参加者は 4 つのグループ(1,2,3,4)に分かれ、グループ 1 と 2、3 と 4 がそれぞれ対立する主張を展開する。相手方に論破されないように入念に資料を読み込み、説得力ある議論を展開するエキサイティングなイベントである。また、内容に関して教授陣に経過報告をする機会が設けられており、どうすれば説得力ある議論を展開できるか、どうすればより見やすくなるか、といった助言が受けられ非常に有益である。

筆者は水圧破砕(hydraulic fracturing=fracking)の長所と短所についてプレゼンしたが、全く知らない分野だったため非常に刺激的だった。プレゼンの序盤ではアイコンタクトをしたり身振り手振りを交えたりできたのだが、途中で上がってしまい後半はただ原稿を読み上げることとなった。きちんとプレゼンが出来る英語力をつけたいと強く思った。

・Urban challenges (講義:2 時間 × 6/ essay:2000 字 × 1)

21 世紀の課題は urban challenges であるということで、urban challenges の授業を受け、レポートを書く。未知の概念について講義を聞きながらメモをとるのは至難の業で、結局ほかの参加者のノートを書かせてもらった。レポートは興味のある都市の一つ選ぶということで日本の都市を選んだが、外から日本の都市を分析するというのは得難い体験であった。

・Martin seminar (講義: 1 時間半 × 4/ discussion 1 時間 × 4)

オムニバス形式の講義と、それに関する議論。個人的には、都市は環境によいという授業が印象に残った。また、ある discussion では架空の開発計画に関して政府や投資家、地元の農家や NGO といったアクターに分かれて公聴会風にディベートした。こうした機会は日本では皆無であるため、ある種のはたりの利かせ方を学べ非常に有意義だった。

・政治学、歴史学に関する講義(当初 5 コマ履修するよう言われたのだが、途中から任意扱いになった)

不慣れな分野で、英語についていけず苦労したが、大局的な政治やものの見方は学べた。

## ② 学習・研究面でのアドバイス

まずは、事前に指定される文献(今回は 3 冊)に目を通して置くこと。これらの文献は essay の参考資料を探す際に必須となる。また、少なくとも今回は指定される文献は非常に質が高く、取り寄せる価値は十二分にあった。

IARU はネイティブの学生でもハードに感じる内容であり、英語慣れていない東大の学生にとっては、慣れるまでは少々しんどいのではないと思う。だが、そのしんどさを楽しむことが出来れば、有意義な日々を送れること請け合いである。筆者の場合英語力が乏しかったが、「英語力で負けても、気持ちと英語以外の学力では負けないぞ」、という気迫を大切にしよう心掛けていた。

## ③ 語学面での苦労・アドバイス等

リスニング力が圧倒的に不足していて、最後の最後まで苦労することとなった。リスニングが出来ないと授業についていけないし、ほかの学生や教授たちと話をすることも支障がある。事前に英語の勉強はしたし、リスニングに関しても日本で市販されているものの中では難度の高い教材で勉強したはずなのだが、全く歯が立たなかった。

東大生は、読解や作文は多少なら出来るはずだし、スピーキングも頑張ればどうにかなると思うが、リスニングだけは事前に徹底的に鍛えることをお勧めしたい。目安としては、まずは BBC を完璧に理解出来ること、そして洋画を字幕なしで楽々鑑賞できること、あたりであろう。

## 生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Exeter college という 700 年の歴史を持つ寮で生活することとなる。規模自体は小さいが、風格があり、また非常に

美しい。今後宿泊先が変わるかもしれないが、オックスフォードの college はどれも素晴らしいので期待されたい。

## ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

1週目はかなり暑い日が多く、半袖でも汗ばむほどであったが、それ以降は肌寒い日が続き、朝夕は上着が必須であった。オックスフォードは小さい町なので徒歩で全て回ることが出来る。イギリスの食事は不味いと評判だが、Exeterでの食事は非常に美味であった。尚、プログラム期間中は college に宿泊するため、出費は少ない。

## ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良い。健康管理で気をつけた特筆すべき点はないが、睡眠は確保するように意識していた。

## ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

為替レートが過去半年で大きく変動したので具体的な額はわからないが、兎に角非常に高額(80万円程度?)であった。金銭的に援助してくれた実家の両親に感謝したい。

## ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

IARU GSP 参加者には自動的に奨学金が支給される。筆者は10万円いただいた。東大からも奨学金が下りるが、筆者は申請要件を満たしていなかった。

## ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は参加者と舟遊びをしたり、博物館へ行ったり、ランニングをしたりしたが、少なからぬ時間を課題に費やしていた。中にはバスツアーに行った人もおり、もう少しアクティブになればよかったのかもしれない。

## 派遣先大学の環境について

### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学習面では、tutor がかなりきめ細かくサポートしてくれる。ただし、手とり足とりサポートしてくれるわけではない。

生活面では、現地の学生や事務の方がサポート役として配置されており、困ったことがあれば気軽に話を聞くことが出来る。また、現地の学生は(少なくとも今回は)面倒見のいい方々で、今になって思うと精神面でも救われていた。

### ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は歴史と風格があり、圧倒的蔵書数を誇っているのだが、開館時間が短かったり、町中に図書館が散在していたりして、慣れるまでは不便である。筆者は、主として science library に通って課題に取り組んでいた。

College の Wi-Fi は通信が遅いときがあり、college にある computer room を利用していた。

筆者はスポーツ施設を使うことはなかったが、気持ちの良い町なので気分転換にランニングをしていた。参加者の多くも朝夕や休日にランニングをしていたようである。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ヨーロッパを見たい、という漠然とした思いから始まった今回の留学であるが、予想をはるかに上回る学びが得られた。まず、ヨーロッパなる存在に関してだが、端的に言って圧倒的な力を持っていると感じた。千年に及ぶ知の蓄積、物語形成能力、懐の深さのいずれの側面においても世界一であり、今後も全世界をけん引していくであろうという感触を強くもった。翻って日本を顧みると、全体として底力が失われている(そもそもあったのか不明だが)ように感じられてならない。一方で、日本には日本なりの蓄積があり、それらを21世紀に合う形で活用できれば独自性と存在感を発揮できそうだと感じた。

現地では、個人的な課題に気づくことが出来た。第一に英語力。TOEFL iBT の点数が100点を超えるくらいでなければ英語力など無いに等しいという現実をまざまざと見せつけられた。第二に専門知識の必要性。オックスフォードは動物科学で世界の先端を走る大学らしく、図書館には東大の150倍はあろうかという量の、生物学・生態学・進化学関連の本であふれていた。この分野にはこれほど多くの本があるのか、という驚きとともに、自分の不勉強さを痛感させられた。第三に、一般的な教養を身につけること。ITリテラシーや科学技術関連の知識が少ないと実感したので、日本では意識して身につけたい。また、他の学生との話題となる文化についてももう少し意識していきたい。私の場合、歴史や古典に興味があり、日本の伝統文化に関する話をしたり、参加者とシェークスピアや印象派の展示を見たりといった点では良かったのだが、現代文化に関して無知なところがあり、ここは少しずつ改める必要を感じた。

成長、と言っているかわからないが、プログラムを通じてある種の図太さ、転んでもただでは起きない雑草魂は発揮で

きるようになったと思う。また、世界中に友人が出来、彼らの思考様式を学べた点でも非常に良かった。

このプログラムの良さは、学際的なところにある。今回の参加者の専門は政治学、文化人類学や国際関係論といった文系から、機械工学、自然科学といった理系まで様々で、「この分野の人たちはこういう話をするのか」「彼らはこういうことが出来るのか」といった気付きがたくさんあった。個人的には、普段は聞くことのできない社会や政治の議論をきけたのがよかったと思う。文系の人たちにとってもまた新鮮な学びが多々あるはずである。

総括すると、今回 IARU-GSP に参加でき非常に有意義な日々を過ごせた。現地でお世話になった友人や教授陣、そして東大の国際交流課の皆様にご感謝の意を表します。

②参加後の予定  
大学院へ進学する予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

・IARU を推薦する理由

IARU のプログラムに参加するのは、世界トップレベルの学生たちである。自分がどこまで世界の中で勝負できるのか、自分には何が出来て何が出来ないか身をもって学べる稀有な機会だと思う。また、どの大学のプログラムもかなりハードらしいので、多くを学べるはずである。少なくとも、今回参加したオックスフォードのプログラムは徹底的に練られた密度の高いものであった。

IARU に加盟する日本の大学は東大だけなので、「異質な他者」に囲まれてもがくという同質的な日本では味わえない貴重な体験が出来る。もちろん、1 か月も勉学・寝食を共にするので他の参加者とは非常に仲良くなる。関心を持たれた方は、須らくプログラムへの参加を検討されたい。

・オックスフォードを推薦する理由

オックスフォードのプログラムを勧める理由、なぜならそこがオックスフォードだから、というのが、偽らざる感想である。オックスフォードは、自分がこれまで見てきた他大学とは全く比較にならない、とにかく圧倒的なところである。オックスフォード大学が 1000 年にわたり営々と積み重ねてきた知の歴史を実感し、ロンドン郊外の片田舎に世界中の頭脳が集結する様子を見るだけで、行く価値が十分あると思う。オックスフォードでは IARU に限らず様々なプログラムが開かれているらしいので、それらに参加してみるのも良いかもしれない。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

過去の参加者による報告が役に立った。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部行動文化学科社会学専修

参加プログラム: OXF1: Global Challenges of the 21st Century 派遣先大学: University of Oxford

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

#### 派遣先大学の概要

12世紀には大学の礎が築かれていることから、現存する大学としては世界で3番目に古く、英語圏では最古の大学です。大学の運営は、学科(department)とカレッジ(college)が並列に行っており、カレッジと学科が複雑に相互依存しています。今回のプログラムでは exeter college に泊まりました。

#### 参加した動機

私は今回の短期留学を通じて、新しい場所での経験ができることを期待しています。新しい場所では会う人々と経験を通じて、今まで自分が居た場所について考察することもできるでしょう。また、世界各国の都市はお互い密接に関わりあっていて、地球という一つの場所の中でネットワークを作っています。そのため、私が住んでいる、愛着を持っている場所を守るためには、世界に目を向けグローバルな観点から考えていく必要があると思います。そこで、私は、都市と環境をテーマにしている今回のプログラムで、環境問題や都市化、グローバル化という側面から持続可能な都市について考察してみたいです。そして、こういった経験が、日本留学生活で生じた「場所」に対する関心を、様々な領域に広げ、今後研究していくきっかけにもなると思います。

#### 参加の準備

##### ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学国際本部 奨学金付き夏季短期留学プログラム応募書類と IARU application を提出しました。校内選考後、4月頭にオックスフォードから連絡がきました。

##### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

オックスフォードから入学許可書が届くので、空港で許可書を見せると短期留学ビザが取れます。

##### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にしていません。

##### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSSMA と学校で紹介してくれた第一成和事務所に加入しました。

##### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

文学部から連絡がきたので、留学許可願「留学」に関する確認書、留学先への入学許可書を提出しました。プログラム期間が試験期間と被っていたので、できるだけレポート提出の授業を取りました。

##### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

入学してからあまり英語の勉強をすることがなかったですが、Sタームに英語の授業をとりました。後は事前 reading として提示された本を読みました。

##### ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

洗剤やシャンプーなど全部買って行きましたが、近くに Tesco(スーパー)があるので、必要なものは大体買えます。

## 学習・研究について

### ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

#### Tutorial

1ヶ月で、climate change, conservation, sustainability に関する4つのエッセイを書きます。エッセイに関する論文と本の reading list を参照しながら資料を調べることになります。エッセイ提出後、エッセイ概要と各自のエッセイに関する議論をする授業があります。

#### martin school lecture & discussion

21世紀の challenge に関して5つの講義を聞き、授業後1時間ぐらいディスカッションをします。

#### urban challenge

2時間 X 2回 X 3週間 行われます。urbanism と globalisation がテーマで、最後に都市に関する 1500-2000 字のエッセイを提出します。

#### presentation

今年度のテーマは Tropical Forest VS Coral Reef, Nuclear Energy VS Fracking でした。

各チーム4人で、1チーム1時間(1人15分)発表することになります。

### ②学習・研究面でのアドバイス

プログラムのトピックにあまり慣れていなかったのも、エッセイを書く時に少し苦労しました。

留学前にプログラムのトピックに関する日本語を本を読んでおくといいかもかもしれません。

また、エッセイのトピックが確かでなかったら一人で悩まず、チューターにメールしたり、友達と相談した方がいいと思います。

### ③語学面での苦労・アドバイス等

参加している学生はほぼネイティブか準ネイティブで、それに順する英語能力が求められます。

また、アカデミックな議論は日常会話よりもスピーディに行われ、苦労しました。

学習量が多く、高い英語力が要求されますが、大変だった分成長できたと思います。

## 生活について

### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮は一人一室で、毎日ベットメイキングをしてもらえます。シャワー室とお手洗いは共用です。エレベーターがないので、初日は少し大変ですが、夕飯の後にいい運動になります。

### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

思ったより涼しかったです。朝晩で気温差があるので、羽織るものがあつたほうがいいです。食事は3食とも充実していて、夕飯には毎日デザートが出ました。

3万円程度両替して残りはクレジットカードを使いました。レートがあまりよくなかったのも、物価はかなり高く感じました。

### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は悪くないですが、夜遅く一人で出かけたりはしていませんでした。

食事がすごく充実してずっと座って勉強していたので、時間があるときは近くの公園でジョギングしてきました。

### ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃: 13万円 (British Airways)

Tuition: 1,087ポンド

accommodation & meals: 2,688ポンド

その他: 5万円程度

### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

#### 東大からの奨学金

50000円 / Santander Scholarship

110000円 / 東京大学の奨学金

#### oxford からの奨学金

1000ポンド / Santander Scholarship

### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末も課題をやっていました。

プログラム期間中にはあまり旅行できないので、終了後4日間ロンドンに滞在しました。

## 派遣先大学の環境について

### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面、学習面についてアドバイザー、またはチューターと相談する機会がありますが、やはり自分で頑張るしかありません。エッセイの勉強やプレゼンテーションの準備を友達と一緒にしながら、より親しくなりました。また、生活面においては summer school assistant がサポートしてくれるので、分からないことがあったら気軽に聞けました。

### ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館(Exeter college 内の図書館は除く)利用可、ただし開館時間が短いです。

校内、寮で Wi-Fi が使えますが、何度もログインしなければならないので、eduroam も使いました。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず7つの大学から来た優秀な学生たちと一ヶ月間一緒に勉強しながら、友達になったことがこのプログラムを通じて得た一番大事で特別なものだと思います。いろんなテーマについて話しながら、皆様々な背景を持っていてまた様々な視点から世界を見ていることが分かり、刺激になりました。

また毎週新しい分野について本や論文を読み、エッセイを書くことは厳しかったですが、短期間にたくさんの知識に触れ、学ぶことで大きく成長できたと思います。

### ②参加後の予定

8月2日から十日間教養学部主催でドイツで行われる European Summer Academy に参加する予定です。

オックスフォードのプログラムで自分がどこに住んでいるか、どこに属しているかによって視点が変わってくることを実感しました。日本とは違う国、また地域の観点を理解する機会になることを期待しています。

また、今回の短期留学を通じていつか海外で大学院で勉強したいとも思ったので、将来についてももう一度考えてみるつもりです。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加するまで英語力や、プログラムの期間、高額な参加費など躊躇する要素があるかもしれませんが、世界の優秀な大学から来た学生たちが参加する IARU プログラムだからこそ得られる貴重な経験が多かったです。ハードなスケジュールでしたが、プログラムを終えた今は参加してよかったと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

参考書リストを送ってもらうので、事前に kindle 版で購入しました。

プログラムに関する詳細：<http://www.iaruni.org/gsp/courses-2015/oxf1>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。











